

技術士青葉会「夏の会」開催

これまでの会の行事は年1回の総会のみであったが、会員相互の交流を深める催しとして、平成26年9月27日（土）午後から、「夏の会」を日本技術士会茸出第2ビル5階会議室で開催された。

大学の強力な支援の下に創立時から多くの会員を集めることができた京都大学の技術士会について、林代表幹事から講演をいただいた。また、技術士試験合格ほやほやなのに技術士会等で大活躍されている松下滋氏から、自己紹介や抱負を伺った。また、新入会会員の自己紹介などもあり、それぞれに活発なQ&Aがあり、引き続き神谷町駅前の「串特急」で行われた交流会にもほとんどの方々が参加され、熱く語り合う交流の場となった。

内容は次の通り

- ◆（講演）京都大学技術士会のご紹介
京都大学技術士会 代表幹事 林克己様
- ◆（講演）粉が化ける（PWBドリル材料の開発と商品化）、技術士への道技術士
（金属部門）京セラ 松下滋様
- ◆納涼会 神谷町駅前 「串特急」



参加者のみなさん



熱弁の林代表幹事



新進気鋭の松下氏



熱心な聴講



挨拶をする沖田氏



新入会挨拶の滝沢氏

第7回定時総会報告

- ・平成26年1月18日 日本技術士会茸手ビル会議室
- ・参加人数 19名
- ・活動報告
会報5号発行、東北支部幹事会報告、幹事会報告
13年度会計報告
会員数 68名（13年入会者10名）
- ・審議事項
会則改訂（特別会員の新設）、東北本部立上げ企画
14年度予算
- ・講演
「福島第一原発事故と技術士」講師 桑江良明氏
（日本技術士会 原子力・放射線部会長）
震災直後から技術士として「部会としての組織的活動をすべき」との意見が出され、「福島対応WG」を

発足させて、放射線測定情報等の発信や避難者交流・相談会への参加など、主に現場で被災者に直接に寄り添う活動を実施してきた状況についての講演があった。





挨拶と報告する荒野会長



会計報告の松本幹事



活動報告の高橋副会長



講演される桑江良明講師



熱心に聞き入る参加者



広島県から参加の川本氏の乾杯（中央）

寄稿・近況報告



興味あることは数多、
ローマ史遍歴

相澤 幸四郎

イラクへの長期出張を終えて間もない 1979 年初め、新業務が決まる前、「技術士受験」を指示されたのが技術士人生の始まりでした。

思いだせば、会社のプラント計画・建設で省エネルギーのセンスを体得したのは、希硝酸プラントの排ガスエキスパンダータービン計画の体験でした。化学プラントは成長の途上にあり設備や機器は余裕を持って仕様を決めていましたが、希硝酸プラントは少し異なります。産出硝酸濃度は運転圧力が高いほど高くなり、プラント運転圧力はエキスパンダーの抵抗で決まります。よって計画運転負荷で所定の圧力を確保出来るようにエキスパンダーの抵抗（入口圧）を決めるため、計画流量ピタリで設計圧力を決めます。この時に回収動力を最大となるようにする訳です。硝酸製造排ガス中 NOX の除去装置を導入し、入口ガス温度が高くなることもあり、タービンを交換しました。この体験を土台として、プラントで使う多くの回転機械の省エネルギーを実現しました。当時の引合仕様書はスペ

ック記述に不備があったことにもよりますが、多くのポンプで最適点（最高効率点）から外れた応札が多くありました。何しろ省エネルギーの感覚が無い時代でした。これ以降、多くの大型回転機に係わり、後年大型コンプレッサートレンを手掛け、この経験の集大成を実現しました。エキスパンダー、低圧の回収蒸気タービンを含むトレンでした。

技術士としては、62歳前に会社を離れて以降、熱、流体を主業務とする筈が、最も長期間関わった SOFC 燃料電池開発では、会社業務で習得した高温材料の利用という分野が加わり、知見・智恵のおさらいでした。思いがけない知見を必要とする場面にたびたび遭遇しました。会社勤務時代に多く経験した、技術的開示したにも拘わらず、未受注となった多くの事例と同様に、技術士業務でも、多くの有用な助言をしたのに、仕事はおろか、後の挨拶も無い場合もありました。しかし個人の技術士として、智恵の出し惜しみは無いように心がけました。

さて的確な知見が後々入手出来た話になります。単身赴任で、大型プラント建設をした2年半に、ローマ帝国衰亡史、中野好夫訳を読み出しました。32年前

の話です。中国から、シルクロード経由西へ向かった歴史への関心と、イラクでパスポート更新した際に、バグダット博物館、バビロン遺跡を訪れたことをも拠り処としての到達テーマでした。皆様ご承知の通り、この衰亡史は概ね2世紀、ローマ帝国が繁栄の絶頂を迎えた時期から記述が始まっています。著者ギボンの狙いは、あの時代に、あれだけの広さの国を運営維持してきた体制が、なぜどのようにして崩壊に近づいて行ったのか、にあった訳です。しかし私には多くの特徴ある人々が善悪、良否取り混ぜて考えられないほどの幅を持って暮し、活動していたことがまざまざと描かれ、引きこまれたのです。随分長い年月掛けて繁栄に至る紀元前から紀元2世紀まで、衰亡史以前のローマの歴史にも手を広げ理解していたつもりでした。2004年にアメリカの友人を訪ね、偶々一緒に図書館に行った折に借りた本「AUGUSTUS」を出立前々日の夜に読み飛ばし、興味ある20頁ほどをコピーして持ち帰りました。帰ってから読み込み、要領よく纏めた序章が何とエンサイクロペディア・アメリカナのAugustusの記述内容とほとんど同じだったのです。二つの著者、記述者が同じだったのです（前書の本文は別著者）。この百科事典は日本にも沢山あり、これほどのエネルギーと時間を掛けずとも容易に入手できた筈です。でも興味を保っていれば、思いがけない情報を手に入れた例として、仕事以外から取り上げてみました。

最近の技術の進歩、革新は目を見張るものがあります。回転機振動問題への関心と僅かばかりの「光、音の伝播や計測の知識」から出発して、今や進捗中の超大型望遠鏡TMTの計画内容、技術的ブレークスルー、等々に到達します。興味を引くテーマは、数限りなくあります。つい先日指摘があつて大動脈弁の超音波検査しましたが、血流はドップラー法計測、見ていると連想が働いて、ドップラーレーダーや雷雲中の雨滴を検出するドップラーライダー、果てにはフェーズドアレイ・レーダーまで話が飛躍します。もちろんこれらを技術士業務レベルとするには多くの努力と時間を要します。注意して見ていますと、自分自身が興味を持続できる分野は数多くあると思えます。

（'62 工学部機械工学卒・機械部門）



『プロセスの運転安全』上梓

旭化成株式会社 清水 健康

2012年に化学プロセスの安全シリーズの第一弾「プロセスの運転安全」を共著で出しましたが、昨年末に第二弾の「プロセスの設備安全」を同じように共著で出版しました。（みみずく舎発行、医学評論社発売）

先の運転安全と同様、安全工学会に関係するプラント建設や現場メンテナンス、運転等の経験豊富なエンジニアが、自分の知識や経験をもとに主として化学プラントの設備の設計、メンテナンス、トラブル対応等の知識を自らの体験事例を交えて具体的にまとめました。現場経験豊富な技術者がよく遭遇する問題を取上げてわかりやすく解説していることで、プラントに関係する新人や専門外の方々にも理解いただけるものと考えています。



「プロセスの運転安全」と併せて読むと現場のことがよくわかると、読者の方から講評をいただきましたので、それなりに判りやすくてきたかなと考えております。ここの所、事故が多発し、原因の一つに世代交代が挙げられ、現場経験の少ない人達が主力になりつつあることが指摘されています。こういった入門書がそういった問題の解決の一助になればと期待しております。現在3巻目の「化学施設の物質安全」の編集に取掛かっております。著者には専門の先生方も多く、そのため内容が難しくなり、更に表現が固くて、編集者からなんとも面白くない本だと指摘を受けております。次の発行までしばらく時間がかかりそうです。

（'73 工学部 化学工学卒・化学部門）



Metallurgist の与太話

川本 明人

新米技術士の川本明人と申します。私の顔写真を載せさせていただきます。お見知りおき願います。

【遍歴】 生まれは愛媛県西部の田舎（旧東宇和郡野村町，現西予市野村町）。育ちは広島県の寂れた旧軍港の“呉”。高校は広島県立呉宮原高等学校（1979年卒）。金属を学びたくて広島から宮城・仙台の大学へ進学、工学部金属工学科を卒業（杉本研，1984年）。その後、活動の拠点を青葉山から片平キャンパスへ。金属材料研究所の基礎鉄鋼学講座（木村研）へ進学。大学院には通算5年間在籍。工学研究科・材料物性学博士課程を修了（1989年）。恩師木村宏教授（故人）のすすめで、某素材メーカーに就職、現在に至る。私の専門は金属物理、格子欠陥論です。しがない自己紹介はこのくらいにして次行きます。

【技術士受験のきっかけ】 名古屋で技術営業をしている中、たまたま名古屋・環境大学の講演会を聴講する機会を得て参加。聴講の話は環境絡みの話でしたが、環境技術論を解り易く解説された方が愛知県技術士会所属の技術士の方でした。懇親会の席、技術論で盛り上がり、このような仲間といっしょに活動できれば楽しいだろうと思ったことが受験の動機です。参考書を片手に大学（院）受験以来の真面目な勉強。2010年1次試験を受験し合格。2011年2次試験を受験し、2012年合格（金属部門）。技術士登録にもたついたが、晴れて技術士になれました（嬉ピー）。そして、2013年たまたまWEBで技術士青葉会の存在を知り、迷わず入会を希望し、役員承認で晴れて入会させていただきました。感謝です。

【現在の活動】 現在、某素材メーカーで鉄鋼材料の研究開発に従事しています。研究の詳細は守秘義務に抵触しますので割愛させていただきます。現在、中国本部に所属し（広島県には県技術士会はありません）、公の活動は化学/繊維/金属部会の幹事及び広報委員を担当しています。CPDは月数回、呉の田舎から都会広島へ出向き、材料に関わらず様々な講演会やセミナー等を聴講し、懇親会で楽しく技術論に花を咲かせています。また、呉に関係のある技術士や修習技術者と“呉

E会”なる共学の間を立ち上げ、活動も行っています。それにしても、倫理感をもった素晴らしい技術士や修習技術者の方が多く、まじめで楽しい議論ができて、私にとっての心のオアシスのような場となっております。これも感謝です。

【東日本大震災に心を痛めて】 2011年3月11日14時46分、名古屋で商品展示会を行っている最中、東日本大震災の余波に遭遇し、早々に商品展示会が終了した記憶があります。それにしても地震、津波、そして福島原発事故（メルトダウンによる放射能汚染）、まさに3重苦の大災害をテレビの映像で見て、これが現実なのかと半信半疑な状態であったように思います。心が痛みました。仙台の友人との連絡不通。7日後にメールの返信があり、無事を知り安堵しました。そして、青葉山の学部時代の学び舎（マテリアル開発系/旧金属系建物）が壊滅的被害で、取り壊し決定との連絡を聞き、学んだ思い出の1ページが消滅したような寂しさを感じたものです。話題が若干逸れますが、私は原発廃止派、推進派のどちらかを支持する者ではありません。原発事故の根本的な原因究明は当たり前ですが、世界初の商用原子炉でメルトダウンを起こした日本だからこそ、汚染原子炉解体技術をはじめ、除染技術、耐震・免振構造技術、地震（津波）予知技術等など、今まで以上に積極的に技術開発をし、支援社会へのせめてもの恩返しをすることが日本の置かれた立場ではないかと考える一人です。また、原発問題は科学技術だけでは解決しないトランス・サイエンスの問題です。最後は政治判断ですが、最後の最後は倫理あるいは哲学でしょうか。

【技術者倫理で思うこと】 ここ最近、世の中で起きている事件・事故を見聞きすると、技術者あるいは研究者倫理の視点からモノ・コトを考えてしまう癖がついてしまったように思います。まだ事実関係が曖昧ですが、STAP細胞論文不正問題は様々な倫理問題（例えばコピペ問題、データ捏造、巨大組織のご都合主義等）を提供しているようです。“未熟な研究者”、“レシピ”、“STAP細胞は存在します”等が流行語のように放送されていましたが、不愉快な気分になりました。教訓は活かすとしても、後味のよくない問題（事件）です。

【金属学から Materials Science へ】 21世紀は複合材料の時代であると思います。金属だけを知っているだけでは材料開発はできないように感じています。金属

学から Materials Science (材料科学) へ。そして脆弱な専門知・経験知の補強も。技術士の仲間との共学を通し、日々成長していきたいものです。

【結び】25年前の楽しかった学生時代が懐かしく思い出されます。ボケる前に、開発が進んでいる新仙台を散策したいものです。しがない与太話をお許し願います。今後は、微力ながら、技術士青葉会が活性化し、仲間(会員)が増えることを祈願しながら、筆を置きます。

('84 工学部金属工学科卒・金属部門 工学博士)



想定外を想定する
「火山防災対策を急げ」

荒野技研・荒野 喆也

1 想定外を想定する

御嶽山が爆発し、死者も出る災害となった。御嶽山は、今世紀に入ってから2006年・2007年にも噴火しているから、それ相応の対策は考えられていたはずである。しかし、我が国の火山災害への備えは全国的に遅れている。国内に110の活火山が存在し、その中でも特に監視強化が求められている47火山のうち避難計画がそろっているのは7火山のみであり、防災協議会が設けられていない活火山が14もあるという。御嶽山のように、頻繁に噴火している山でも、災害が防げなかった。まして、富士山のように300年も噴火していないと、爆発することは、一般的には想定されていない。しかし、近年世界的に地震や火山爆発等の地質活動が活動期に入ったといわれ、わが国でも2011年に観測史上最大の東日本に大地震が発生した。一般的には地震と火山爆発は連動するといわれ、富士山爆発が話題になっており、国もハザードマップをつくり、避難計画も作成しつつある。

2.富士山大爆発の可能性

富士山は今年2013年に、世界文化遺産に登録され喜びに沸いた。この日本人の心の山である富士山が爆発するなどという事は、だれもが想定したくない。しかし、現実には、今、この想定外を想定しなければならない状況にあるとされている。地殻活動には、活動期と静穏期があるが、以前の9世紀頃の活動期には、過

去最大の津波を引き起こした貞観大地震や富士五湖を形作ったといわれている貞観の富士山大噴火等があり、また18世紀には、地震の実録としては最大の宝永地震とその49日後の富士山の宝永大噴火がある。そして我が国は今、第3の活動期にあるといわれている。火山爆発では、最近の9月に、桜島が観測史上最大級の5,000メートルの噴煙を噴き上げた。

3.火山噴火と地震の連動性

上述したように9世紀と18世紀の活動期には、富士山大噴火は大地震と連動している。世界的に1900年以降マグニチュード9以上の大地震は4回(カムチャッカM9.0、チリM9.5、アラスカM9.2、スマトラM9.1)あるがいずれも近隣火山の大爆発が連動している。5回目の東日本大震災だけは例外たりえない。連動するのは、地震によりマグマだまりが揺さぶられると噴火の引き金となる。地震の根源となる我が国近海の4つのプレート中の3つのプレート(ユーラシア、フィリピン海、北米)の接点に富士山が位置するのも不気味である。

4.我が国の火山防災対策

富士山爆発の対策として、約300年前の宝永噴火の規模を想定して、国はハザードマップを作り、被害想定額を2.5兆円と算出しているが、世界的に東京のように大都市に近いところでの火山爆発は経験がなく、電子機器に頼る大人口圏の被害規模は、想定外である。地震の場合は、その被害状況は派手に報道されるが、火山噴火によるものは地味である。世界史において、地震で都市が消滅した例はないが、火山噴火(ベスヴィオ火山)によりボンベイのように都市まるごと消滅したという史実を忘れてはならない。

('58 工学部機械工学卒・機械、総監 工学博士)

新入会会員のご紹介

松下 滋

1958年11月17日生まれ(55歳)

- ・理学部物理第二学科卒業(1985年)
- ・1985年京セラ(株)入社
- ・専門分野 切削工具用セラミックス、超硬合金の商品・工程設計



・現在、機械工具事業本部・岡谷ドリル材料技術課
平成 26 年 3 月 技術士取得 金属部門・金属加工
Yes Metals(金属部会若手の会)・幹事、技術士ライフブ
ラン研究会・幹事
趣味：マラソン、登山



加賀 雄悦

42 才 家族：妻・子供二人

部門： 電気電子部門(情報通信)

会社： 東日本電信電話株式会社

居住地： 千葉県白井市(出身：秋田県能代市)

平成 9 年 3 月 工学研究科応用物理学専攻〔修士〕
大学の先輩からお誘いいただき参加させていただくこと
となりました。会を通じて知見を深めさせていただけれ
ばと思いますので、若輩者ですが卒よろしくお願いい
たします。通信で何かお困りごとがありましたらお気軽に
ご相談ください。



嶋村 良太

(機械部門・総合技術監理部門
工学部機械工学第二学科 1988 年卒)

はじめまして。昨年より技術士青葉会の仲間に入れて
いただきました嶋村です。共通一次で点を稼いで入
学したもののアカデミックな東北大工学部に全くつ
いていけず、何とか卒業した後は「脱・技術系」を願
って輸送用機器の商品企画・デザインを中心に仕事を
してきました。でも、ふと気がつく「技術士」を
目指している自分がいました…
皆様どうぞ末永くご指導のほどお願い致します。



滝沢 英二

工学部精密工学科を昭和 51 年に卒業
した滝沢と申します。宜しくお願いし
ます。

私は昨年(平成 25 年)11 月に新菱冷熱工業という
空調設備施工会社から NEC に転職しましたが、その
際「技術士資格」が大いに役立ちましたのでご紹介し
ます。昨年の 8 月頃にある転職エージェントよりメー

ルが入り、NEC が技術士(機械部門)資格保有者を
探しているとのことでした。NEC が建設業法上の機
械器具設置工事業の申請に当たり、専任技術者の適任
者を求めているというのです。さっそく応募してみ
ると 2 回の面接を経て、9 月末に採用が決まりました。

転職後約 1 年経過しましたが、現在は NEC の機
械器具設置工事業の専任技術者として、監理技術者の
選任、搬送機械設置工事の指導業務などに従事してい
ます。この一年を振り返りますと、やはり重要な資格
を確実に取得しておいてよかった、というのが素直な
感想です。

さて簡単な自己紹介ですが、冒頭で述べたように、
私は昭和 51 年に精密工学科を卒業し、同年新菱冷熱
工業に入社しました。そこで、主に空調設備の設計業
務に従事し定年後も継続勤務していましたが、前述の
通り NEC に移り、現在に至っています。

その間に技術士の機械部門と衛生工学部門を取得
しております。

ところで、技術や技術士にはあまり関係ないの
ですが、私は「公益社団法人 国際観光施設協会」に所属
しており、その機関誌「観光施設」の編集長を勤めて
います。「観光施設」は年に 4 回発行される季刊誌で
もあり、ホテル・旅館その他の観光施設に関する新し
い情報や新施設の紹介、建材や設備などの新技術の解
説など、観光施設に関する有益な情報が掲載されてい
ます。

編集長は執筆者への原稿作成依頼、査読・校正、印



刷業者との打合せなど多彩な業務を
こなさなければなりません。また、
時には自ら取材も行うなど、東京
オリンピック・パラリンピックを 6
年後に控え、締め切り時期には忙し
い日々を送っています。

また、私はつくば地区のコーディネータの集まりに
も参加しており、ここでの経験を技術士青葉会でも生
かしていけたらと考えています。宜しくお願いします。

瀬尾 勝之

・経歴

私は現在母校東北大学の建つ仙台に住んでおり
ます。出身は北海道で、昭



和17年札幌で生まれ高校卒業まで函館に住みました。昭和41年3月に東北大学工学部土木工学科を卒業し、直ちにゼネコンの鹿島建設に土木系社員として入社しました。現在は東北地区には土木系学科のある大学は数多くありますが、当時は東北地区の国公立および私立の大学で土木工学科があったのは東北大だけでしたので、学卒で入社した35名の土木系社員で東北出身の土木職の新入社員は私だけでした。

その頃の我が国は戦後20年の節目で、まさに高度経済成長の途上にありました。1年半ほど前に東京オリンピックが終わり関東地区の建設投資も一段落し、関西方面が万国博覧会や山陽新幹線、中国自動車道の建設などで賑わっておりました。5年後には関西や山陽方面も建設投資が終了し、やがては東北の時代が到来するとの予兆を感じる時代でもありました。その関係で私は東北支店（当時は仙台支店）に配属になり、そこから青森や秋田の現場の第一線でトンネル工事やダム建設、土地造成、石油貯蔵施設などに従事しました。

・母校東北大の事

仙台市内に居を構え東北地域で仕事に従事していると必然的に東北大との関わりが多くなります。土木工学科の同期の教授やお世話になった恩師や先輩後輩も多く居られて、同窓会を通して何かとお世話になりました。現在同窓会では、土木工学科同窓会、青葉工業会（工学部同窓会）、萩友会（全学同窓会＝プレミアム会員）に所属しております。これらは、総会や記念イベント等が毎年定期的に開催されますが、殆どの会合に参加しております。これも東北大を卒業して仙台に住んでいるからこそ可能な事と思っております。特に、平成19年に開催された100周年記念式典は、大学創設100年目の節目に、たまたまその時代に生きていて仙台に住んでいたからこそ参加できた、世紀の大イベントとして印象に残っております。

なお、昭和41年の卒業式の際に、「学士会」への入会案内もあり、これは旧七帝大の卒業生だけが入会できる会で、東京工大や慶応、早稲田の卒業生は入会できない権威ある会との事で何となく会員になり現在は終身会員となりました。しかし会の活動は東大および学士会館のある東京が中心なので仙台に住む我々にはあまりメリットは感じられないので退会しようと思いましたが終身会員登録しておりましたの

で、そのまま継続しております。

なお最近、東北大片平本部に「学士会・東北支部（支部長・里見進総長）」の事務所ができたので、仙台でも毎年10月の東北大ホームカミングデイに合わせて、講演会や懇親会も開催される様になりました。

・技術士の事

私は大学卒業時点では技術士制度についての認識はありましたが、ゼネコンの中では仕事上で技術士の資格が必要なのは、土木設計部門や技術研究所に勤務する者や本社の技術部門に勤務する技術屋に限られており、我々の様な現場勤務の社員には1級土木施工管理技士（国家資格）が必須でしたので、技術士には殆ど関心は有りませんでした。と言うよりは、同じ国家資格と言いながら、施工管理技士よりも遥かに高度な知識や経験がなければ試験には合格できないと言われていたので、私には縁が無いものと思っておりました。したがって私が最初に技術士試験に挑戦したのは定年後です。受験のキッカケはこれまでの自分の経験した仕事を通して、どの程度技術士として通用するのか試して観たかったからです。かつては大学卒であれば1次試験は免除されておりましたが平成14年に制度が変わっていたので、1次試験から受けなおして、平成17年度で2次試験に合格できました。建設部門には11の科目がありますが、私は殆どが現場勤務でしたので、「施工計画、施工設備および積算」という科目で受験しました。この科目は工事現場の施工計画、施工管理、施工設備・機械その他の施工に関する事項や/積算及び建設マネジメントに関する事項が主な内容です。2次試験に合格後の平成18年春に技術士会東北本部（当時は東北支部）に入会しました。入会後すぐに会を運営する幹事に誘われました。40代～50代の会員は所属企業の仕事が多忙であり技術士会の運営に携わる余裕がない様で、私の様な定年後の暇な会員が幹事に推薦される様です。その様な訳で現在私は東北本部の建設部会副部会長、I T S研究委員会幹事、宮城県支部幹事（会計担当）などを担当しております。

・技術士青葉会の事

小生が「技術士青葉会」の存在を知ったのは、平成21年10月に仙台で第36回技術士全国大会が開催された時です。通常は技術士の出身校に関しては殆ど話題にはなりません。どこで何方が調べたのかは定

かではありませんが、私のメールに「母校のある仙台で全国大会が開催されるにあたり“技術士青葉会”の会合を開催したい。」旨の連絡がございました。インターネットで検索したところ、技術士青葉会は平成20年4月に設立したばかりで、規約も制定され総会も開催されている様で、東北大学を卒業した私にとっては興味深い思いが致しました。私は当時は全国大会の裏方を担当しており、とてもそんな余裕は無いので返事は出しませんでした。それ以来技術士青葉会の事は気にはなっておりました。

あれから約4年後の今年の5月頃に、東北本部長の吉川兼造氏から、『東京の統括本部で、技術士青葉会の荒屋会長から、“東北大学のある仙台や東北地区の会員を増やしたいが、だれか紹介して欲しい”との相談があったので、貴方を推薦しておいた。』との話がありました。その後すぐに荒野会長からも電話とメールがあり、当会の趣旨を伺いしとりあえず会員登録を済ませました。

その後、8月の中旬に東京で荒屋会長にお会いし、技術士青葉会の概要について直接お話を伺う事が出来ました。また9月27日には、「夏の会」に初めて参加致しました。私の所属している技術士会組織はどこも建設部門の会員が多いので、講演会のテーマも何となく土建屋の話題が主流になりますが、技術士青葉会は建設部門の会員は少なく、とても新鮮に映りました。また、参加者が東北大関係者に限定されている講演会が、CPDの対象になっている事にも感心しました。

さてこれからは、まずは母校のある仙台地区において本格的に会員を増やさなければならないと思っておりますが、青葉会の理念である、東北大学の資質とネットワークを活用し、高度な科学技術の知識と知恵を結集し、よりよい社会と暮らしの実現に向け、社会貢献し続ける事、また会の目的である、母校東北大学の発展に貢献し、技術者の能力開発の一助となるような活動をすること、また会員相互の親睦を深めること、に努めたいと思っております。

しかしながら私は、技術士歴が浅い事と年齢的には高齢者の部類に属しますので、何をするにも限界を感じますので、今後ともご支援ご鞭撻のほどを宜しくお願ひ申し上げます。

(’66 土木工学科卒 建設部門)

東北大学の近況

高橋 富男

S39 金属工学卒

■震災復興状況

東日本大震災で大打撃を被った青葉山キャンパスの復興も大分進んでいます。建て替えという措置となった金属、電気・応物、土木建築の3棟は9月初旬以降順次に竣工式を迎えております。いずれの建物も免震構造となっているようです。10月初旬は研究室の引っ越しに追われている状態です。

震災によって、ライフラインが絶たれたこともあり、せっかくの研究試料（特にバイオ系）がダメになってしまったために、研究継続が出来なくなって学位取得をあきらめた後期課程学生が結構おりました。早く新しい研究室で研究が始まることを祈っています。

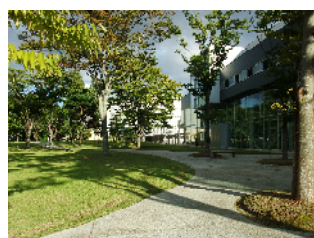
また、震災直後に設立された「国際災害科学研究所」の新研究棟が出来上がり、本格的な研究が始まります。場所は、元のゴルフ場跡地（青葉山新キャンパス）で宮城教育大学の近くです。新キャンパスには、東京エレクトロンからの寄附により建設された「国際集積エレクトロニクス研究開発センター」が稼働していますし、雨宮地区からの移転が予定されている農学部の建物・施設の建設も着々と進んでいます。



電気・応物棟



マテリアル棟



工学部中央食堂付近



土木・建築棟



【お知らせコーナー】

技術士青葉会ホームページ刷新について

平成25年からホームページが刷新されています。東北大学から学章の使用許可も得てアップしています。制作は、広報担当幹事の橋爪さんが担当されました。是非ともご覧ください。

[Http://pe.aobakai.com/](http://pe.aobakai.com/) です。また、掲載希望の記事がありましたら、広報担当幹事までお寄せ下さい。(広報担当)



技術士青葉会東北地区会合のご案内

東北地区在住のメンバーによる会合が予定されています。

関係者のご参加をお待ちしております。

- ◆日時 平成26年11月26日(水)18時半～
- ◆場所 片平北門食堂2階
- ◆話題 東北地区技術士青葉会の活性化

技術士青葉会役員(平成26年度)

(卒業年・学科)(部門)

- 会長 荒野 喆也(58 機械)(機械・総技監)
- 副会長(総務) 杉本 昌明(63 農学・水産)(水産)
- 副会長(広報) 高橋 富男(64 金属)(金属・経営工学)
- 幹事(総務) 安藤 克己(75 機械)(機械・金属)
- (企画) 熊坂 治(79 応物)(経営工学・総技監)
- (企画) 蒔田 律郎(87 材物)(金属・建設・化学・総技監)

- (企画) 沖津 修(89 理学・化学)(化学)
- (企画) 工藤 季之(90 理学・生物修)(生物工学)
- (広報) 橋爪 慶介(87 建築)(建設・総技監)
- (会計) 松本 京子(02 薬学修)(生物・補)
- 監事 千葉 俊雄(58 機械)(経営工学)
- 渡部 栄久(57 機械)(機械)

後記

世の中で色々な「会」が作られて活動していますが、その中でも、大きなもののひとつが「同窓会」ではないでしょうか。高校の同窓会東京支部長を仰せつかって6年経ちますが、総会への参加者人数を増やすことが最大の課題です。いかにして会そのものへ関心を持ってもらうことが重要ですが、往々にして敬老会(?)風になってしまい、若い人の参加が少ないという現象になりがちです。最近、Facebookによる情報発信をしまして、若い会員の参加が増えてきました。魅力的なものにするためにも企画は若者に任せて世代交代を図る予定です。

京都大学で技術士会を結成したところ、大学の理事が、ご自身も技術士であることもあって、学内でのPRやOBに声掛けしてくれて、いきなり500人以上の会員登録があったとか。

43%が建設部門の技術士とのこと。建設部門会員が20%の当会とは構造が異なるものの、まったくうらやましい限りです。技術士の資格がビジネス上で必要な建設部門技術士が多いことも会員登録者数が多くなっていると推察しますが、東北大学出身者の毎年の合格者数が多い割に、入会者が少ないのは、まだまだ新規入会者の開拓が足りないのでは反省します。

「技術士青葉会夏の会」の開催は、総会とは一味違った企画で、講演、新入会員の自己紹介、懇親会共に盛会でした。特別な利害関係がない会への参加は、企画そのものが最重要であり、参加意欲をそそる内容が望まれます。これからも企画担当幹事が中心となって、より多くの参加を実現できる企画が待たれるところです。(談)